

2023取り組み 事業概要、総括案、事業費決算見込み

芸術の秋、かしわらのまちじゅうにアートがあふれる
 かしわら芸術祭 2023 事業概要

日程：10月21日(土)～11月12日(日)
 展示部門(屋内)：10/28(土)11/5(日)

タイトル：かしわら芸術祭 2023 (第10回柏原ビエンナーレ)
 会場：柏原市内のサテライト会場 20ヶ所：屋内外でほぼ半分出展参加数：57個人・団体グループ：大阪だけでなく奈良／愛知なども含め総勢450名

部門別：展示51、パフォーマンス3、アートイベント4、Anyアートワークショップ7

連携・サポーター：協賛48、連携8、サポーター112人
 協賛：48企業団体へと協賛増(前回18から3倍増)

企画≪特別出展企画≫
 グラン・ファミリー(TRIO)：日本の歴史上の人物とつながりを探る肖像画群の絵画の塔

≪川 Narra≫テーマ6会場でワークショップ作品など12作品

- ①「シン・柏原舟」を象徴する現代の船
 ・「NOAH」時空に漂う舟群、大空を漂う飛行船
- ②多面的な角度から川の探索：光・風・かたち
 ・「川をつなぐ+」「光の川」川物語の体験インスタレーション
- ③子どもの自由な表現力で生み出す世界
 ・「川から生まれるかたち」「空の下、みんなで描いたでっかい壁」
 ・ワークショップDAY／子どものえがくドキドキわくわく世界特別出展アーティスト

TRIO：グラン・ファミリー、ポートレートなどワークショップ
 嶋田ケンジ：「NOAH」
 大阪芸大アートサイエンス：「光の川」
 樋口尚：川をつなぐ+
 若林節子：柏原神社「土塊」
 U-KO：異なる未来を想像する意識(再生アートインスタレーション)
 松田真魚：季秋(Live Art Performance)
 もっさんみいこ：ワークショップDAY

新たな種別の発掘
 ・新たなアーティスト群

ヤマニシデンキ：一樹、REIYA、家近まさかず、
 今町：川原書道教室、竹細工@藤川、綿@修徳学院、エコ手作りガラス

大正ゾーン：芸術系大学生や高校生の出展：大阪芸大アートサイエンス、柏原高校美術

・テーマのユニーク性
 大正NESTなど：自転車コレクション、柏原工作教室
 ・楽しさと不思議さを生み出すライブパフォーマンス
 サークル八尾二胡、幸&イエローバンド
 もりたひよしこ、樋口尚、身体領域#2(愛知)、松田真魚

<焦点>
 コンセプト・テーマ、独自性：Anyアート、川 Narra
 出発点：アフターコロナに向けて、再創生の触媒としてアート

・ヒトの交流や結びつきの拡大、川のもつ機能「交流とつながり」
 ・社会の閉塞感からの脱却と未来に対する希望や気力の回復
 方向：「Anyアート」をコンセプトに、≪川 Narra≫をテーマに、ディレクターを核にしたワークショップで実現

参加型アートの展開：Anyアートの具現化
 ・手ぬぐいWeekやクレイジーキルトの展開があるが、前回の「川をつなぐ」が初めて、次の参加型アートプロジェクトやワークショップ方式採用。

- 10/21 川をつなぐ+ 樋口尚
- 10/14 そらをおよぐさかなをつくろう！ U-KOworkshop
- 10/22 ドキドキわくわく！ workshopDAY もっさんみいこ
- 10/28 みんなでつくろう！でっかい飛行船を 松田真魚
 →参加数は、サポーターを含め延べ311名、子ども181名。ディレクターを支えるAnyアートの活動力の強化と参加者拡大。

前進面と問題点・課題
 来場者数の今回の減少は、前回のヤマニシデンキのジオラマや、妖怪大銭湯の櫻湯などの話題性に欠けたのも原因。野外展示の増や野外パフォーマンス等が新たに加わり、またクイズラリーにより回遊性もアップし、芸術祭のブランド訴求での前進面が生まれた。Anyアートの裾野や土台づくりには、時間的物理的な制約と位置づけと理解が不十分な中、当初の効果を十分生み出せなかった。また川物語とアートにおいては、柏原に限定せず広域的・継続的展開が必要。さらに、芸城祭としての賑わいの創出に向けて、以下のような課題解決が求められています。

- ①参加型アートのワークショップ：参加者募集、サポーターやエコ素材にたいする理解や確保も不十分で、参加者も大きく拡大できなかった点、広報やAnyアートの位置づけの弱さの解決必要。
- ②「アートでまちを巡るAnyアートクイズラリー」：参加者30名(内、手ぬぐい配布14)。企画案内マップ、賞品/グッズの確保、運営マニュアル用意など、はじめての試みとして効果もあったが課題もありその整理が必要。
- ③アートツアーとアートプロモーション：企画運営の外部化方針を取ったが取り組みも遅く部分的、今後の拡大が不可欠。
- ④協賛：新たにロゴ表示方式の変更で、デザインがスツキリ、ページ数減で、市助成金削減分を解決したし、プログラムだけでなく、新たに会場ボードのPRも実施。
- ⑤PR戦略：会場別ボード、JR柏原駅自由通路PR、のぼりの設置など新しい前進はあったものの、町会掲示板活用など、まだまだ不十分。
- ⑥SNS戦略：従来のHPでのイベント案内やFacebookからのみで、特にインスタグラムに力点が、ほとんど表現できず、発信も遅いので体制も含めた日常的な解決が必要。
- ⑦インフォメーション設置：JR柏原駅改札前などPR機能やクイズラリーの対応、マルシェ、ゲーム、イベントなどのインフォメーションの機能と役割の総合的な機能整理が必要。

特に会場当番の必要性を含めた関係調整が重要。今回は「わ」や大教大など学生ボランティアのサポートで助かった。

⑧ライブパフォーマンス(会場、観客、日程)：芸術祭らしい可能性が高いが、組織的な対応強化が必要。

⑨物販と展示の関連整理：St.オガタやをかしわらマルシェとの整理は前進。引き続き日常的に積極的な連携協力が求められる。

⑩会場整備の役割と意義：今回、大正ポケット広場片づけ、ヤマニシデンキの壁塗り、JR柏原駅前草刈りなどは、事務局だけの小規模な対応で実施したが、お掃除隊など他地域での芸術祭的な広がりとなっていない。

⑪現状の組織連携改善：地域自治組織との連携や行政の機能分担と有効活用が継続的に求められる。

総括案：2023の評価と対応方向

今回に関して、独自テーマ設定や参加型アートなどAnyアートの具現化の取り組みやインフォメーション設置、クイズラリーの実施など前回の課題解決や前進はあるものの、来場者やサポーターも含め従来の状況を変える事業展開には至っていない。アートを触媒に「いかに、つながる、めぐる」など「Anyアート」を掲げ、地域と人々との関係性を深め、「アートを楽しむ」視点のもと「交流と連携」による新しい地域空間の創出をめざしていくには、次の4点の対応方向が求められている。

公共空間を有効活用した展開

・長瀬川・了意川の「川をつなぐ」、JR柏原駅ロータリーの「NOAH」、StreetオガタのワークショップDAY、市民プラザロビーのこどもWS作品、JR柏原駅自由通路PR、かしわらテラスパフォーマンスなど有効活用。また横断幕を2本制作し、芸術祭のPR拡大に寄与した。

→展示活用面では、許認可調整など拡大・定着し、また川の展示はインパクトを与えたが新たな展開や広がりはこちらから。

→会場として今後アート拠点として継続発展の可能性は、ヤマニシデンキ、大正通りNESTゾーン、今町老人会館などが定着してきたが、日常的安定的な拠点確保が求められる。また、地域からのAnyアートに対する期待の高まりが醸成できていないのも現状では限界がある。また「柏原レミダ」などの実現のシナリオづくりが必要。

事業企画運営の外部化

・プロモーション事業は、「AnyアートPMツール」を作成し、グッズ関係はAnyアート手ぬぐい、缶バッジなど芽が生まれ、またアートツアーは、ライブパフォーマンスともつながった。印刷・SNS戦略などデザイン・プレゼン関係の依存も不可欠であるが、財政的な担保も必要。

→今回のテスト実施から本格展開に向け、事業企画運営の外部化により加速化が求められる。

事務局体制の強化

・前回から事務局体制を変更したが、行政等の公共空間の関係や広報関係の引き継ぎはスムーズな実施、協賛企業の拡大と財政対応、新たにクイズラリーやインフォメーションの設置も実施した。また会場別案内についても、今町老人会館やワイナリーでのアーティストと連携による作品紹介についても前進した。

→会場分担型から、広報・ロジステック・情報発信交換など事務局での横割りのネットワーク調整が脆弱であり、人的若返りも含め体制の強化が不可欠。

→会場マニュアル・資材の整備、受付機能の明確化など、事務局の運営あり方など有機的な結合。

組織論上の課題

・目標設定：めざすべき組織目標：「Anyアート」のスローガ的な一般理念の限界を越えるには、芸術文化により人・場所・活動がつながっていく有機的なネットワーク「文化芸術コモンズの構築」との整理が必要。

<文化芸術コモンズ：アートの受容ネットワーク空間=文化的コモンズ(誰もが自由に参加共有できる文化的な営みの総体)の構築>：別府・八尾・神戸長田などがめざす。例：八尾(やおうえるかむコモンズ)

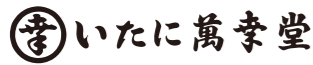
・人的機能面の確保：新たに設置した理事会の人的な有効活用と拡充と共に、地域内外におけるネットワーク機能の脆弱性の解決が課題。

特に、コンセプト/テーマに沿った企画内容を固めるディレクターと共に芸術祭を広げ楽しめるビジネスプロモーション機能と、事務局機能の人的活性化と連携強化。

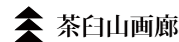
→サポーター問題：発掘、養成など抜本的な対応が不可欠。
 →特別出展作家の開拓：展示機能の充実支援・会場運営支援。
 「芸術祭」としての看板を掲げた展開をめざすのか、「市民文化祭」とし収斂するのか、今回の総括が組織的な分岐点にある。

かしわら芸術祭 2023 決算見込み 2023.12.06

収入の部	科目	23収入見込額	21決算額	内訳(前々回実績)
	繰越金	131,575	220,889	91,534
事業収入	協賛広告	480,000	160,000	155,000
	寄付金	3,000	110,000	134,900
	市助成金(1/2)	10,000	280,000	238,000
	出展料	182,000	262,000	216,000
収入合計		806,575	1,032,889	835,434
支出の部	科目	23支出見込額	21決算額	内訳
事業費	賃借料	227,600	212,000	展示会場使用料11箇所 全体会議室料
	謝金	10,000	85,000	講師謝金など(AT,WSなど)
	印刷製本費	27,830	17,600	募集要項 プログラムなど ポスター 記録集 協賛ボード
	委託料	105,000	71,000	ビジュアルデザイン/印刷物制作
	通信運搬費	28,000	78,417	通信郵送費(募集要項発送等)
		25,000		記録集発送
		5,016		HP情報発信費(サーバー管理費)
		15,500		作品搬入レンタカー代
		10,000		インターネットワイド会費
	保険代	12,600	13,700	イベントなど市民活動行事保険
	消耗品費	7,000	162,734	WS材料費など 展示用資材 コロナ対策用品 Anyアート手ぬぐい：特別会計へ 印刷関係消耗品など
		8,000		
		0		
		50,000		
		25,000		
	旅費	0	57,800	講師、学生サポーター等
	交流会費	20,000		
	その他	0	2,000	
管理費		20,000	3,500	会議室料
支出合計		797,086	865,598	
繰越金		9,489	167,291	



オガタ通り商店街



サポーター

出展者

新よし子、青木市子、家近健二、岩本貞泉、一樹、岩山竜明、市川和正、川原溪月、桐浴邦好、木村彰秀、木村静、木塚あゆみ、こうのとりのさゆり、小西勝、永井英千子、中浦真一、西照 夢、新田昭一、西澤明里、瀧久仁子、藤川視果、福井泰子、松枝道政、もりたいよしこ、安田紗依、井ノ浦英子、岩崎陽子、浦野良子、遠藤サチヨ、越智陽子、刈谷美千代、片岡三枝子、久保田千景、駒田順子、酒井一美、住吉聖子、谷口眞人、塚口隆子、辻野育子、辻野親子、出野陽園、富永涼月、西野てるみ、野口静月、濱本太津子、東前和子、平井真理、平畑保之、二神当代、福井恒子、南虹月、村上恵美子、森脇二三江、安尾やよひ、山本早霧、柳浦成子

一般

青木雅代、浅野千里、井上知子、井上正人、稲森親子、茨木ヒロ子、乾明子、神崎ともこ、坂本茂人、三田文美、先田桂奈、津田百合香、杉本倍子、塚畝八重子、辻野静代、友谷陽彦、中川雄彦、原田敦子、東森美尚、船野智加枝、松井靖子、間下和美、南孝明、宮脇、村岡洋子、安田利秋、山本ひさ子、山本道子、山本洋子、八束扶子、REIYAMA

学生

岩村木乃春、生駒絢土、岡本緯吹、杉浦七弥、田端佑衣、田道玲向、中村奏宥、朴世花、三村愛実、八木紗羅

Anyアート理事、運営委員、事務局など

加藤可奈衛、桐山知兼、西村優子、平井互、松川哲也、森山陽介、浅野幸治、小柴堅司、島野友子、友田昌秀、土井邦敏、西村美江、浜崎久枝、松見博章、吉原孝

50音順／敬称略

かしわら芸術祭の開催にあたり、110名を超えるサポーターの皆様にご支援いただきました。全ての方々のお名前を挙げることはできませんが、皆様のご協力で深く感謝申し上げます。

KASHIWARA biennale

柏原ビエンナーレ10回までのあゆみ

第1期	2004/10/01~06	第1回柏原ビエンナーレ展:上本町ギャラリー、呼びかけ人3名
	2006/04/26~30	第2回柏原ビエンナーレ展:柏原リエールホール
	2008/05/13~18	第3回柏原ビエンナーレ展: 同上
	2010/05/11~16	第4回柏原ビエンナーレ展:作家会(代表・家近、事務局長・川俣)
第2期	2012/05/12~17	第5回柏原ビエンナーレ “柏原から発信する!美術展” 作家会(代表・森田、事務局長・村瀬)リエールホール サテライト会場:古町、オガタ通り商店街 記念シンポジウム開催(フローラルセンター) 特集作家制度設置
	2014/11/23~30	第6回柏原ビエンナーレ “柏原から発信する!美術展” 会場:リエールホール、古町・太平寺、本郷、オガタ通り商店街に拡大 子どもアートフェア部門開設 アーティストトーク開催 記録集発行
	2016/10/09~16	第7回柏原ビエンナーレ展:柏原ビエンナーレ実行委員会、アッポコ) リエールホール及び市内4ゾーン13ヶ所のサテライト会場
第3期	2019/03/14	KASHIWARA芸術祭実行委員会の設立:作家会から地域関係者主体へ
	2019/11/02~16	KASHIWARA芸術祭2019(第8回柏原ビエンナーレ) Anyアート
	2020/02/01	Anyアート設立:KASHIWARA芸術祭実行委員会とアッポコ合同総会
	2021/10/30~11/07	かしわら芸術祭2021(第9回柏原ビエンナーレ) Anyアート
	2023/10/21~11/12	かしわら芸術祭2023(第10回柏原ビエンナーレ) Anyアート



【表紙裏】
「季秋」松田真魚(ライブペインティング身体表現舞踏技法作品)
【裏表紙裏】
「奇妙な生き物の生態」身体領域 #02(鈴木 大翔/環や ゆかり) + 副島 日穂 & 奥村 俊彦(音楽演奏)
【裏表紙】
「川をつなぐ」樋口尚/写真:桐山知兼

Anyアート:かしわら芸術祭2023 記録集
発行者: Any アート:かしわら芸術祭実行委員会
発行日: 2023.12
編集・デザイン: 松川哲也、浅野幸治
表紙デザイン・写真: 向野むぎ(パカンス)
写真: 村尾尚子(パカンス)

いつでも
どこでも
だれでもアート

かしわら 芸術祭 2023

第10回 柏原ビエンナーレ



主催・お問い合わせ



Anyアート：かしわら芸術祭実行委員会

[事務局所在地] 〒582-0005 大阪府柏原市法善寺1-6-5 (友田方)

[メールアドレス] artfes@anyart.jp [FAX] 072-970-0500

 @anyartjp

 @anyartjp

 AnyArt

<https://anyart.jp>



Anyアート

